

目指す学校像	互いを認め、個性と良識を磨き合う学校づくり～学ぶ喜びと豊かな心、安心・安全と信頼・協働～
--------	--

重点目標	1 効果的なICT活用及びアクティブ・ラーニング等を推進し、生徒の学びに向かう意欲を高める。 2 教育活動の充実と教育環境の整備等により、生徒の学力及び体力の向上、エージェンシーを育む。 3 学校・家庭・地域の連携・協働により、「地域とともにある学校」づくりを推進する。 4 スクールダッシュボードの活用や指導力向上に向けた面談等により、教職員の働きがいを高める。
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標					年度評価		実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況【% 達成率】	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○R5年度全国学力・学習状況調査において、市・全国の平均正答率と比較し、国語、数学、英語の平均正答率ともに概ね良好な結果である。 ○市教委研究委嘱「小・中一貫教育」を推進し、学年単位や校種単位での教え合い、学び合いの授業実践により、思考の深化や表現力の工夫が見られる。 (課題) ○R5年度全国学力・学習状況調査「家庭学習」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、全国・県平均を上回ったものの60%であった。また、市学習状況調査「授業における主体性」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、市平均を新2年生は上回ったが新3年生は下回った。	生徒の学びに向かう意欲を高める取組の実施	①デジタル教材及びICT端末の効果的な活用及びアクティブ・ラーニングによる授業の実践 ②不登校生徒等の学習保障及び評価を実践する(Solaを一むの効果的な活用) ③市教委研究委嘱「学びの連続性を活かした真の学力の育成」を推進する(学年・小、中単位での教え合い・学び合い実践) ④学力ポートフォリオによる具体的な手立て及び全国学調効果的な振り返りの実践 ⑤3年間の研究実践を生かしたSTEAMS TIMEの実践 ⑥2者面談の実施及びいじめ撲滅強化の実践	○「TPC活用」生徒結果の90%以上(R5・1・2学年90%未満) ○学年単位での教え合い・学び合いの実践(年3回以上)できたか ○小・中の教え合い・学び合いによる中一の普通救命講習Iの修了証取得(1学年) ○生活ノートと学習計画表の形式を合わせた計画表の活用(全学年)できたか ○「望ましい集団及び職員の相談体制」の生徒結果「十分である」「ほぼ十分である」のうち「十分である」の全学年65%以上(R5・全学年65%未満)					
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国・県平均を上回った。 ○コロナ禍により対面式給食を4年ぶりに実施した。 ○保健・美化委員会で校内の救急関係と清掃活動に関するHow to動画を作成し、生徒主体の活動を促進している。 (課題) ○市学習状況調査において「将来の夢や目標をもっていますか。」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全学年市平均を下回った。 ○大規模校につき、一斉下校時の歩道等の過密化及び、都市部につき車の交通量が多い。 ○昨夏、熱中症警戒アラートが多く発出された。 ○コロナ禍の影響で、小学校中学年時の運動不足等による怪我や体力の低下が懸念される。	エージェンシーを育む教育活動の実践	①3年間を見通したキャリア教育の実践 ②特別支援学級における体験学習の充実を実現する ③スクールダッシュボードと生活ノートの活用による教育相談等の実践 ④対面式とオンライン配信による儀式的行事の実施 ⑤生活目標を軸とした生徒会等による生徒主体の活動実践の推進	○学校評価の肯定割合「夢をもち、自分なりに努力」の「十分・ほぼ」の生徒結果90%以上(R5・84.9%) ②学校評価の肯定割合「一人ひとりが認められている」の「十分である」の生徒結果70%以上(R5・50%)					
		健康・安全教育和安全管理の推進	①中・高等学校生自転車運転免許交付にかかわる講習の実施及び交通安全指導 ②小・中一貫による引渡し訓練及びBLS教育 ③健康・安全に関する外部講師招聘による講習会などの実施 ④熱中症防止のための指標計の設置及び監視・周知体制の実践 ⑤夏季における部活動実施時間の工夫 ⑥PTAと協働による下校見守り体制の実践	○学校評価の肯定的な割合「交通ルールの遵守による登下校」における生徒結果の肯定的な回答「十分である」「ほぼ十分である」のうち「十分である」90%以上(R5・80%未満) ○学校評価の「常に健康に気を付けている」における生徒結果の肯定的な回答「十分である」「ほぼ十分である」のうち「十分である」60%以上(R5・全学年60%未満)					
3	(現状) ○令和4年度より学校運営協議会を設置し、「これからの社会を主体的に生きる生徒の育成」を掲げて「内谷中ボランティア制度」を実施している。 ○PTAと連携・協働してコロナ禍を踏まえ時流に応じた教育活動の充実及び情報発信の在り方について、検証・改善に取り組んでいる。 (課題) ○学校運営協議会での熟議等により、地域が目指す「育成したい子ども像」を共有し、その実現に向けた取組「内谷中ボランティア制度」の生徒会主導実施を持続可能にしておくこと。 ○生徒会との協働ですすめている校則の見直しについて、より多くの視点による見直しが必要である	家庭・地域との連携強化のための取組の実施	①気候変動や時流、コロナ禍の成果を踏まえた行事の実施 ②様々なツールを活用した家庭・地域との連携強化の実現 ③PTAとの協働による教育活動の実践	○学校評価の肯定的な割合「期待や願いへの満足感」の保護者結果の回答「十分である」「ほぼ十分である」のうち「十分である」90%以上(R5・84.7%) ○学校評価の肯定割合「生徒会の自主な活動」の「十分である」が生徒結果70%以上(R5・56.9%)					
		学校運営協議会を基盤とした学校・家庭・地域の連携・協働体制による取組の推進	①三位一体となった行事等の運営に向けた学校運営協議会の熟議 ②学校と地域との協働による生徒ボランティア制度や地域行事の実施 ③学校運営協議会と生徒会の協働による校則検討会の実施地域の方々との会食	○地域・保護者との行事の実施(年6回以上) ○ボランティア参加生徒の年間延べ人数250人以上(R5・221人) ○地域の方々との会食の実施					
4	(現状) ○タブレット端末をはじめとしたICTの活用について、エヴァンジェリストが中心となり研修を重ねて、教員間の取組の差が縮小されている。また、校務への活用内容も増加している。 (課題) ○スタディサプリ・デジタル連絡及び採点等新たなコンテンツの導入及び効果的な実用ができるか。 ○授業改善を図るために、スクールダッシュボード授業アンケートを活用できるか。 ○同僚性や協働性の発揮や働き方改革に対する意識に教員間で差が見られる。	ICTの効果的活用等による指導の向上や校務の効率的な実施と同僚性や協働性の発揮による業務負担軽減の実践	①ICT及び未来を拓く学校づくりに関する校内研修並びに受講奨励面談の実施 ②ICTを効果的に活用による教育活動とデジタル教材等の効果的な活用の実施 ③特別の教科「道徳」の学年内教員のローテーションによる授業実践 ④デジタル連絡及び採点等新たなコンテンツの導入及び実用 ⑤教員各自の専門性を活かした授業時間の実現とスクールダッシュボードを活用した授業改善 ⑥衛生委員会の実施及びノー残業に関する取組の実践	○デジタル連絡及び採点ツールの実用化(2学期より) ○スタディサプリを定期テスト前や長期休業中に必ず活用できたか ○機関・希望研修や文科省・Nitsの動画研修の教員受講100%(R5・76%) ○ストレスチェックによる「総合した健康リスク」の低下(R5・82%、R4・83.5%) ○ノー残業ディ・ウィークの実施(通年)					